『國民新報』1939年7月23日

　―主張―　英國よさがれ

　がアジアにそのをみ、のをひめてから二に□んとする[[1]](#footnote-1)。さしものもそのばかりでなくまでもすつかりられてつて、そのとして三のがからかつたのはととである。はののをとしてからととをきげたにらず、がつていざいをふになるとをてのなるをばさへけてつた。となであつたらう。

　一のはであつて、のなどてんでにない。のののためにてばそれでむのであつてのはとなれとなれである。このをばはさもなるかのくひ、またくのもまんまとのにされてた。にがのとののの□[[2]](#footnote-2)があるのだ。それはととのひである。

　さては々とのをけてのなるにきつた。がアヘン、、のとやらにをゑてにものにをつてるところへのにぬツと現はれたのがのであつた。にいてはににのてをしてたのである。それがのにいてとうとうそののをさらけしてつたのである。二のがののは二であることがらかにされたのだ。

がにしてたざりせば、は二のになつてふのだ。ばかりでなくがのになるにまつている。るにはのからめないのか、たるにらないのか。それはのちとのとをへず、二ははアジアにするりなるをもしるがあるとふことをしなかつたためのにはれる。

でがであるが、その一ののは、のにはありない。にしてだにアジアにけるのをせずばにはだ、『よがれ！』とにのはをはれるであらう。

1. 単行本では「垂んとする」になっている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 単行本では「對蹠性」になっている [↑](#footnote-ref-2)